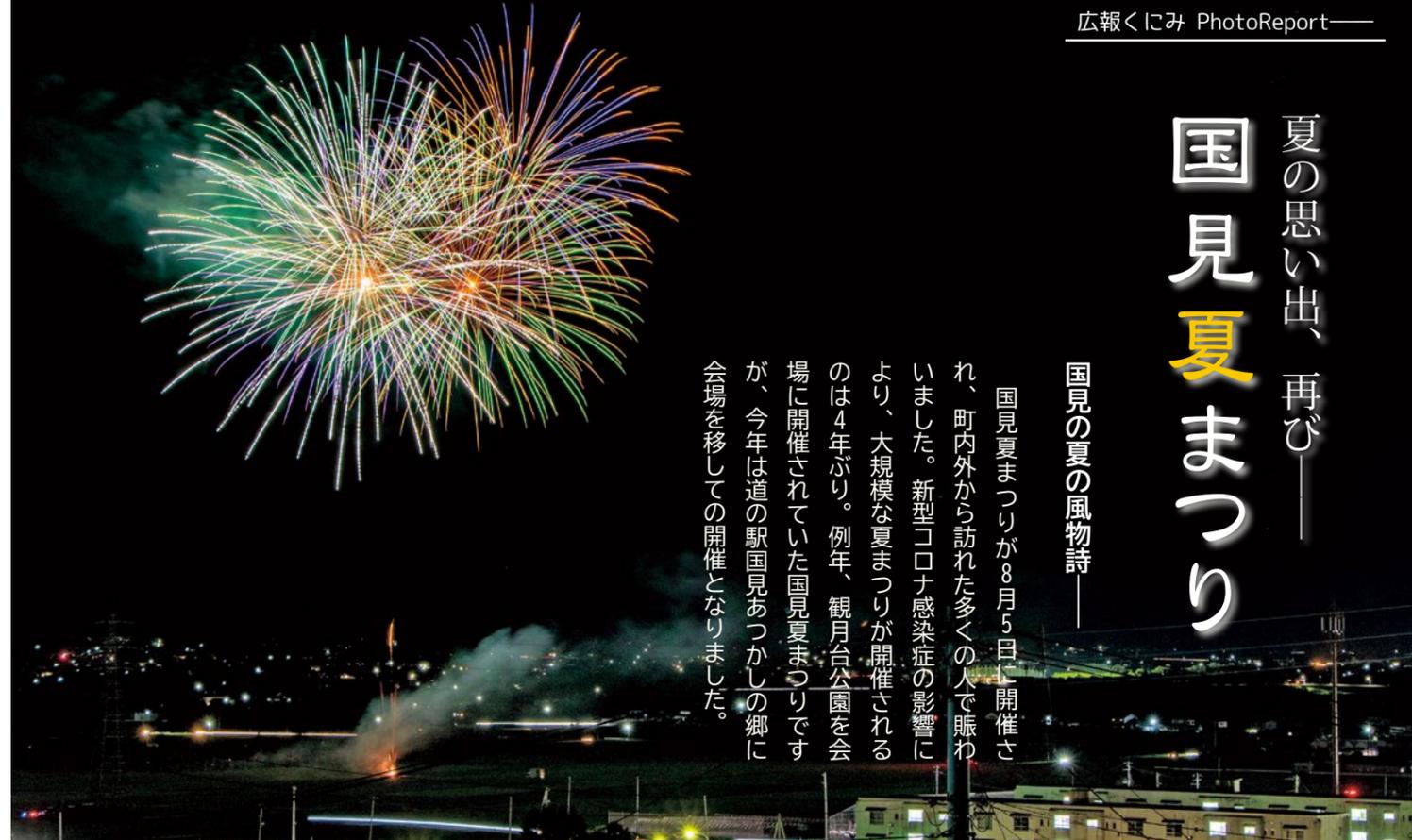


# 夏の思い出、再び—— 国見夏まつり

国見の夏の風物詩——

国見夏まつりが8月5日に開催され、町内外から訪れた多くの人で賑わいました。新型コロナウイルス感染症の影響により、大規模な夏まつりが開催されるのは4年ぶり。例年、観月台公園を会場に開催されていた国見夏まつりですが、今年は道の駅国見あつかしの郷に会場を移しての開催となりました。



1 多くの来場者が詰めかけた夏まつり会場 2 1等の人気ゲーム機に大喜び 3 夏まつりの開始直後から賑わった露店 4 会場から臨む打ち上げ花火 5 来場者も一緒に踊った国見 YOSAKOI

笑顔があふれた会場——

夏まつりの会場に設けられた特設ステージでは、マジックショーや国見 YOSAKOI、豪華賞品が当たる大抽選会や太鼓演奏などが行われ、会場は大盛況。広場では、かき氷や焼きそば、射的や水ヨーヨー釣りなど、多くの露店が軒を連ね、来場者を楽しませました。

フィナーレでは、夏まつりの最後を飾る大輪の打ち上げ花火。色とりどりの花火が国見の夜空を彩ると、会場からは大きな歓声が上がりました。



国見町商工会青年部

齋藤 規矩雄さん



今年は道の駅に会場を移しての開催だったので、さまざまな不安がありました。ですが、暑い中でも幅広い年代の方に来場していただき、大成功の夏まつりになりました。あらためて、開催して良かったと感じています。

今後は、部員数の減少などの課題を解決しつつ、皆さんに喜んでもらえる「国見夏まつり」を途切れさせることなく、続けていきたいです。

## 地域のつながりを大切に

徳江・小坂地区で盆踊りを開催

新型コロナウイルス感染拡大で中止されていた、徳江・小坂地区の「徳江豊年盆踊り」と「小坂地区豊年仮装盆踊り大会」が4年ぶりに開催されました。各会場には小さい子どもから大人まで大勢の人が訪れ、盆踊りなどを通じて交流を深めました。参加した方たちは「町や地域を元気にするには、人を集めることが一番。みんなでまた、こうして盆踊りができてうれしい」と笑顔で話してくれました。



## 国見の民話 かるた

【第五回】  
嫁いびり

【縁組は たたりてこわれ 嫁の血蚊柱】



むかしむかし、石母田には「さんざえもん」という大層な財産家が住んでいました。土蔵倉が四十八もあって、作り酒も作っていたそうです。

そのさんざえもんが塚野目の、こちらも相当な財産家から嫁をとったのですが、そのお嫁さんがこちらの家風に合わないことで、「さんざえもん門」という、家の門口に嫁を縛りつけてしまいました。夏の暑い季節に、一晩中そのままにされたままだったので、お嫁さんは何度も蚊に刺されてしまい、「蚊柱」が立ってそのまま亡くなってしまいました。そのたたりによって、石母田と塚野目の縁組はいつでも不調に終わってしまうので、今でも縁組がないという言い伝えが残っているそうです。